

ルーマニア月報

2017年3月号



平成29年4月14日
在ルーマニア大使館作成

Embassy of Japan in Romania
<http://www.ro.emb-japan.go.jp>

本月報はルーマニアの報道をもとに、日本大使館がとりまとめたものです。

(AG:アジェルプレス通信, ZF:ズィアルル・フィナンチアル紙, NO:ナインオクロック紙)

主要ニュース

- 【内政】 ●与党PSD及びALDE内における内部抗争が顕在化。ALDEでは、コンスタンティン共同党首が副首相の職を解任させられた。他方、ポンタ元首相はPSDに残留。
- 【外政】 ●ヨハニス大統領は、ローマで開催されたローマ条約60周年EU首脳会議に出席した。
- チャールズ英皇太子が、二度目となるルーマニアへの公式訪問を行い、ヨハニス大統領、グリーンデアヌ首相等と会談した。
- 【経済】 ●2016年第4四半期のGDP成長率（推定値）は対前年同期比4.7%（季節調整前）及び4.8%（季節調整後）。2016年のGDP成長率は4.8%（季節調整前）、4.8%（季節調整後）で据え置かれた。
- 8-17日にIMFミッションがルーマニアを訪問した。
- ブカレスト市庁ホームページはブカレスト市議会がブカレスト都市計画（UMP）を承認し、同計画はM6号線も記載（29日）。
- 公共財務省は、2月末のルーマニアの財政収支は約3億9,710万レイ（約8,824万ユーロ）、対GDP比で0.05%の黒字であったと発表した。
- 【我が国との関係】 ●石井大使がグリーンデアヌ首相を表敬し、両国の経済関係強化を中心に意見交換した（21日）。
- 日・ルーマニア防災セミナーが開催された（13日）。
- 日系企業を対象とした国立物理学・原子力工学研究所におけるELI-NPプロジェクト視察ツアーが企画され、約10の日系企業が参加した（16日）。
- コンテンポラリーダンス・カンパニー「NOISM」による「ラ・バヤデーラ 幻の国」公演がブカレスト国立劇場大ホールで行われた（30日）。

内政

■コンスタンティン副首相解任に向けた動き

【事実関係】

・27日、PSD（社会民主党。中道左派）及びALDE（国民自由党。中道右派）は、与党連立会合を開催し、コンスタンティン副首相兼環境相（ALDE共同党首）を解任し、後任に、ガヴリレスク議会関係相（ALDE）を充てることを決定した。議会関係相の後任には、イリエ上院議員（ALDE）が指名された。

・28日、グリーンデアヌ首相は、副首相の解任に伴う内閣の構成変更に対する大統領の承認を求める布告を大統領府に送付した（その後、4月3日、コンスタンティン副首相は正式に解任され、ガヴリレスク副首相兼環境相が就任した）。

【経緯】

・タリチャーヌALDE共同党首とコンスタンティン

同党共同党首との確執は、昨年12月に行われた議会総選挙前から候補者リストの作成を巡り取り沙汰されてきたが、2017年に入り、早期に党大会を開催して単独の党首選出を望むタリチャーヌ共同党首（党内多数派）に対し、党大会開催をできる限り先延ばしし巻き返しを図りたいコンスタンティン共同党首（党内少数派）との意見の相違として顕在化していた。

・両共同党首の対立は、両者の非難合戦（タリチャーヌ共同党首はコンスタンティン共同党首を情報機関に近い人物と非難する一方、コンスタンティン共同党首はタリチャーヌ共同党首をPSDに言いなりであると非難）に発展し、3月に入ると、同党首がALDEを離党するのではないかとの報道がなされた（コンスタンティン共同党首によるALDE執行部批判は、同じく党執行部を批判し、党離党の可能性を示唆していたポンタ元首相との共同行動、具体的には民族主義政党として知られるPRU（統一ルーマニア党）への参加を意味するのではないかとの憶測を生んだが、ポンタ元首相はその後PSD離党の意向を取り下げた。21日、同共同党首はそうした考えがあることを否定）。

・こうした経緯を踏まえ、連立パートナーであるPSDから党内の混乱を収束するよう求められたALDEは、26日、党中央政治局会合を開催し、コンスタンティン共同党首の副党首解任を賛成86票、反対12票、棄権5で決定した。

【参考】

・先の議会総選挙の結果、ALDEは、議会に全議席の約6%にあたる29議席（下院20議席、上院9議席）を保有。そのうち約20名の議員がタリチャーヌ共同党首派であるのに対し、コンスタンティン共同党首と行動をともにする可能性のある議員は10名程度と見られている。なお、PSD/ALDE連立与党は現在、議会過半数である233議席を越える250議席、閣外協力を行っているUDMR（ハンガリー人民民主同盟。ハンガリー系民族政党）及び少数民族グループの議席を加えると297議席を有している。また、議会に新たな会派を形成するためには、下院では10名、上院では7名の所属議員が必要となる。

■ポンタ元首相の離党意思示唆とドラグネア党首による拒否

・10日、ポンタ元首相は「白紙」離党届を提出し、PSDからの離党の意思があることを示唆しつつ、離党するかどうかはドラグネア党首の決定に委ねるとの意向を示した。これに対して、同日、ドラグネア党首は、ポンタ元首相には本気で党に反対するつもりがないことを期待する、同党首がイライラを解消することを希望すると反応した。

・13日、ドラグネアPSD党首は、ポンタ元首相からの「白紙」離党届は真剣なものだったとは思えない旨述べた上で、同離党届を破り捨てたことを明らかにした。

■DNAによる緊急政令第13号捜査に関する憲法裁判所判断

・10日、憲法裁判所は、政府による緊急制令第13号（刑法の一部改正）制定に際し、DNA（国家汚職対策局）が関係閣僚の刑事捜査を行ったことは、検事総長及びDNAの越権行為に当たるとの判断を示した。

・12日、これを受けてトアデル法務相は、両者の解任の可能性を含めて、ラザル検事総長及びキョベシDNA首席検事の活動について調査を行い報告書にまとめる意向を表明した。

・30日、トアデル法務相は、記者会見を開き、調査の結果、ラザル検事総長及びキョベシDNA首席検事の双方ともに対し辞任を求めないことを決定した旨発表した。

■ヨハニス大統領による国民投票実施見送りの意向表明

・6日、ヨハニス大統領は記者からの質問に答え、現状では、国民投票の実施を急ぐ必要はない旨答え、国民投票の実施を当面見送る考えを明らかにした（8日、同大統領は改めて国民投票見送りの意向を確認した）。ヨハニス大統領は、1月23日、政府による恩赦・刑法改正に関する緊急政令制定の動きに対し、汚職との戦い及び公務員の廉潔性に関する国民の意思を問う国民投票を実施する考えを示し、翌24日、国民投票実

施に向けた手続きを開始していた。

■ウドレア元地域開発相に対する実刑判決

・28日、ウドレア元地域開発相に対して、汚職の罪で、禁固6年の実刑が言い渡された。

■世論調査結果

・16日、世論調査機関SOCIOPOL（中道左派寄り）が本年3月に実施した公的人物の信頼度、支持政党及び次期大統領候補に関する世論調査結果を公表した。概要は次のとおり。

【公的人物の信頼度】

・アラファト内務次官	71%
・フィレア・ブカレスト市長	44%
・グリーンデアヌ首相	35%
・ヨハニス大統領	34%
・ダニエル総主教	33%
・タリチャーヌ上院議長	32%
・メレシュカーヌ外相	32%
・キョベシDNA首席検事	31%
・ヴァシレスク労働相	31%
・イサレスク中央銀行総裁	31%
・ドラグネア下院議長	29%
・ポンタ元首相	29%
・プルンブ欧州基金担当相	28%
・チョロシュ前首相	25%
・シャイダ副首相兼地域開発相	25%
・コンスタンティン副首相兼農業相	20%

【支持政党】

・PSD	47%
・PNL	21%
・USR	12%
・ALDE	6%
・UDMR（注1）	5%
・PMP	5%

（注1：UDMRは与党を構成しないが、PSD+A

LDE連立与党と閣外協力を行っている。）

【政党支持者別次期大統領候補支持率】

－PSD支持	
・フィレア・ブカレスト市長	32%
・ポンタ元首相	18%
・ドラグネア下院議長	10%
－PNL支持者	
・ヨハニス大統領（注2）	37%
－支持政党なし（反PSD）	
・キョベシDNA首席検事（注2）	28%
・ヨハニス大統領	20%

（注2：ヨハニス大統領周辺はこれまで、同大統領が二期目の当選を目指していることを仄めかしているが、フィレア市長及びキョベシ首席検事とも、現時点では、2019年大統領選挙立候補の可能性を否定している。）

外政

■主な要人往来

・1日、ヨハニス大統領は、ルーマニアを訪れたムスカット・マルタ首相と会談した（マルタは2017年前半のEU議長国）。

・6日、メレシュカーヌ外相は、ブリュッセルで開かれたEU外務理事会に出席した。

・7日、ビルチャル欧州問題担当相は、ブリュッセルで開かれたEU総務理事会に出席した。

・9-10日、ヨハニス大統領は、ブリュッセルで開かれた欧州理事会に出席した。

・13日、メレシュカーヌ外相は、アジア・グループ大使ワーキングランチに参加した。石井大使の他、中国、韓国等、アジア各国の大使が出席した。

・14日、メレシュカーヌ外相は、ルーマニアを訪れたシュティール・クロアチア副首相兼外務・欧州問題相と会談した。

・16日、ビルチャル欧州問題担当相は、ルーマニアを訪れたコルセピウス独連邦首相府欧州政策総局長とEU改革等について協議した。

・17日、ルーマニアを訪れたメレドフ・トルクメニ

スタン副首相兼外相は、ヨハニス大統領及びメレシュカーヌ外相とそれぞれ会談を行った。

- ・ 22日、メレシュカーヌ外相は、ワシントンで開催された対IS有志連合閣僚会合に出席した。
- ・ 23日、ルーマニア北東部のピアトラ・ネアムツにおいてルーマニア・モルドバ合同閣議が開催された。
- ・ 25日、ヨハニス大統領はローマで開催されたローマ条約60周年EU首脳会議に出席した。
- ・ 29-31日、チャールズ英皇太子がルーマニアを訪れ、ヨハニス大統領及びグリーンデアヌ首相と二国間関係等について会談を行った。また、マーガレット王女、ラドゥ王子及びダニエル総主教との懇談、ブカレスト市内の博物館や国立公園への視察を行った。
- ・ 30日、ヨハニス大統領は、マルタで開催された欧州人民党大会に出席した。
- ・ 31日、メレシュカーヌ外相は、ブリュッセルで開催されたNATO外相会合に出席した。

■EU関係

【複数の統合速度】

- ・ 1日、ヨハニス大統領は、「複数の統合速度（ユンカー欧州委員長が5つの可能性を示唆）」に分けられた欧州という考えに断固として反対する姿勢を示した。
- ・ 10日、欧州理事会に出席したヨハニス大統領は、各国の指導者に対し、複数の統合速度が望ましい方策ではなく、EUを分裂させる可能性があるとして訴えた。
- ・ 25日、ローマでのEU首脳会議に出席したヨハニス大統領は、同会議で採択されたローマ宣言をルーマニアの懸念が反映された「前向きでバランスのとれた内容」として評価した。大統領府関係者は、ローマ宣言で複数の統合速度に言及した場合には、署名を拒否することも辞さないとしていた。

【シェンゲン加盟問題】

- ・ 3日、ダン内相は、駐ルーマニア欧州委員会代表部のクリステア代表と会談を行い、ルーマニアのシェンゲン加盟への欧州委員会の支援を確認した。

■英国関係

ルーマニア月報

【英国のEU離脱】

- ・ 29日、ヨハニス大統領は、チャールズ皇太子との会談の中で、英国のEU離脱に関連して、英国居住のルーマニア人への影響について言及した。
- ・ 29日、グリーンデアヌ首相は、英国が今後もルーマニアの重要なパートナーであり、二国間の戦略的パートナーシップが維持されていくことを主張した。
- ・ 29日、ビルチャル欧州問題相は、英国のEU離脱の通知を受けて、ジョーンズ英EU離脱相と、両国政府の立場等について電話会談を行った。
- ・ 30日、シャイデ副首相は、各省が所掌分野における英国のEU離脱の影響に関する分析を行っていることを述べた。

■米国関係

- ・ 22日、米国での対IS閣僚会合に出席したメレシュカーヌ外相は、会合のマージンでティラソン米務長官と会談を行い、戦略的パートナーシップに基づく両国関係の発展、政府間ハイレベル会合開催への関心等について言及した。ティラソン米務長官は、首脳レベルを含む継続的な二国間対話への歓迎の意を示した。

■モルドバ関係

- ・ 23日、ルーマニア・モルドバ合同閣議において、エネルギー、インフラ、環境及び地域開発プロジェクト等の両国関係の発展について議論が行われた。
- ・ 両国間のガス・パイプライン相互接続プロジェクトについての分析が行われた。グリーンデアヌ首相は、2019年までに完了することを信じていると述べた。
- ・ 安全保障に関して、グリーンデアヌ首相は、モルドバがNATOの演習を活用する必要性について述べると共に、約800名のモルドバ軍兵士がルーマニアにおいて訓練を受けてきたことを評価した。

■北朝鮮関係

- ・ 7日、ルーマニア外務省は、12日行われた北朝鮮による弾道ミサイル発射実験に対する憂慮を示すプレスリリースを発出した。
- ・ 20日、ルーマニア外務省は、19日行われた北朝

鮮によるミサイル用大出力エンジン稼働実験に対する憂慮を示すプレスリリースを発出した。

■軍事・安全保障関係

・21日、クレム駐ルーマニア米国大使は、本年7月にルーマニアにおいて、NATO加盟国の約3万人の兵士が参加する大規模軍事演習が実施されると発表した。また、同大使は、ルーマニア軍及び米軍の良好な関係を強調した。

・31日、メレシュカーヌ外相は、ブリュッセルで開催されたNATO外相会合に出席し、昨年のNATOワルシャワ首脳会合における決定を引き続き実施していくことを主張した。

また、メレシュカーヌ外相は、モルドバ、ジョージア、ウクライナや西バルカン地域の戦略的重要性及びNATOによる積極的な関与の必要性を強調した。

ウクライナ理事会では、ウクライナの安全保障及びミンスク合意の履行状況と展望について議論され、メレシュカーヌ外相はウクライナの領土一体性に対する明確な支持を表明した。

■経済

■マクロ経済

(特に記載のない限り、対前年比又は前年同期比、季節調整後、出典は国家統計局INS)

【1月分統計】

(1) 鉱工業

	12月	1月
工業生産高	3.9%	5.5%
工業売上高(名目)	7.3%	9.1%
工業製品物価指数	0.9%	2.6%
新規工業受注高(名目)	2.6%	7.8%

新規工業受注高(名目)が加速。工業生産高、工業売上高(名目)及び工業製品物価指数が若干加速。

(2) 販売

	12月	1月
小売業売上高	8.4%	6.2%

(自動車・バイクを除く)		
自動車・バイク売上高	18.3%	11.2%
小売業売上高 (ユーロスタット)	ユーロ圏 1.8%	ユーロ圏 1.2%
	EU28か国 2.8%	EU28か国 1.5%

小売業売上高(自動車・バイクを除く)及び自動車・バイク売上高が減速。

なお、1月の小売業売上高(ユーロスタット)対前年同月比では、スロベニア(+15.4%)が最も増加し、次いでルクセンブルク(+8.8%)及びリトアニア(+8.5%)。

(3) その他

建設工事	12月	1月
	▲19.8%	▲6.6%

(4) 輸出入

	12月	1月
輸出	€43億1,110万 (9.4%)	€46億8,020万 (13.6%)
	RON194億7,170万 (10.1%)	RON210億8,820万 (13.1%)
輸入	€54億9,650万 (7.5%)	€52億8,240万 (17.4%)
	RON248億2,580万 (8.1%)	RON238億330万 (16.9%)

【2月分統計】

・消費者物価指数

	1月	2月
全体	0.05%	0.20%
食料品価格	1.12%	1.43%
非食料品価格	▲0.24%	0.11%
サービス価格	▲1.08%	▲1.71%
消費者物価指数 (ユーロスタット)	ユーロ圏 1.8%	ユーロ圏 2.0%
	EU28か国	EU28か国

	1. 7%	1. 9%
--	-------	-------

2月の消費者物価指数（ユーロスタット）は対前年同月比では、アイルランド（▲0. 3%）及びルーマニア（▲0. 5%）が最も低く、次いでブルガリア（0. 9%）及びデンマーク（0. 9%）。

【その他統計】

・7日、INSはルーマニアの2016年第4四半期のGDP成長率（推定値）を対前年同期比4. 7%（季節調整前）、及び4. 8%（季節調整後）、また対前期比では1. 3%（季節調整前）としそれぞれ据え置いた。2016年のGDP成長率は4. 8%（季節調整前）、4. 8%（季節調整後）で据え置かれた。（INS）

■IMF、国際機関関係

・8-17日、Baqir Reza氏を団長とするIMFルーマニアミッションは、ブカレストを訪問し、ヨハニス大統領、グリーンデアヌ首相、その他の閣僚と面談を行うと共に、ルーマニア経済の現状に関する調査を実施した。（17日付IMFホームページ）

■産業界の動向

・1日、フランス自動車製造者委員会（CCFA）によると、2月におけるフランスでのダチア新規登録台数は8, 838台になり、対前年同月比で5. 6%増加した。フランスの自動車市場全体は1. 7%減少した。1月～2月にかけては、ダチア新規登録台数は1万7, 985台になり、対前年同期比で2. 8%増加した。（CCFA）

・12日、ルーマニア運転免許証・自動車登録局（DRPCIV）によると、2月の新車登録台数は11, 979台に達し、対前年同月比で約50%増加した。（12日付AG）

・16日、欧州自動車工業会（ACEA）によると、2月におけるヨーロッパでのダチア自動車新規登録台数は3万2, 441台となり、対前年同月比で11. 0%増加した。1～2月にかけては、ダチア自動車新規登録台数は6万5, 624台となり、対前年同月比で10. 2%増加した（ACEA）

・21日、ルーマニア自動車生産者輸入業者協会（APIA）によると、1～2月の車両販売台数は17, 216台で、対前年同月比で15. 1%増加した。2017年1～2月のメーカー別自動車販売は1位がダチア（3, 454台、市場シェア：25. 9%、対前年同期比で6. 2%増加）で、次いでVolkswagen（1, 776台、市場シェア：13. 3%、対前年同期比で30. 5%増加）、Skoda（1, 368台、市場シェア：10. 3%、対前年同期比で11. 0%増加）、Renault（929台、市場シェア：7. 0%、対前年同期比で44. 3%増加）、Ford（917台、市場シェア：6. 9%、対前年同期比で17. 9%増加）、Mercedes Benz（574台、市場シェア：4. 3%、対前年同期比で48. 3%増加）。（APIA）

■公共政策

・欧州基金省は、2017年2月末の欧州基金執行率（2007～2013年）を90. 44%と発表。1月末から不変。（31日付欧州基金省）

・ブカレスト市庁ホームページは、3月29日、ブカレスト市議会の総会がブカレストーイルホフ県2016-2030アーバンモビリティプラン（UMP, Urban Mobility Plan Bucharest-Ilfov 2016-2030）を承認した旨発表している。同ホームページではプロジェクトの情報が紹介され、「新地下鉄線・M6号線・バネアサ空港（国内線）オトペニ空港（国際線）と地下鉄M4号線と国鉄駅（北駅）の接続（対ルーマニア円借款・ブカレスト国際空港アクセス鉄道建設計画の対象事業）」も掲載されている。

■財政政策

・27日、公共財務省は、2月末のルーマニアの財政収支は約3億9, 710万レイ（約8, 824万ユーロ）、対GDP比で0. 05%の黒字であったと発表。1月末の財政収支は約30億2, 410万レイ（約6億7, 200万ユーロ）、対GDP比で0. 37%の黒字であった。（公共財務省）

■金融等

・1日、2月末の外貨準備高は344億9,500万ユーロ（1月末の345億1,800万ユーロから減少）、金準備高は103.7トンで不変。（BNR）

・16日、1月末の経常収支等について次のとおり発表。

（1）経常収支は4億1,600万ユーロの黒字。なお、前年同期には2億1,100万ユーロの黒字であった。

（2）外国直接投資（FDI）は、2億6,000万ユーロ。なお前年同期は2億8,600万ユーロ。

（3）中長期対外債務は、2016年末から0.9%減少し、684億7,200万ユーロ（対外債務全体の74.3%）。

（4）短期対外債務は、2016年末から1.2%増加して、236億9,100万ユーロ（対外債務全体の25.7%）。（BNR）

■労働・年金問題等

・2日、ILO基準による1月末の失業率は12月末の5.5%から0.1%ポイント減少し、5.4%であった。（INS）

・13日、1月の平均給与（グロス）は、3,168レイ（約704ユーロ）で、対前月比で2.7%減少。平均給与（手取り）は2,300レイ（約511ユーロ）で、対前月比で54レイ（2.3%）減少。なお、平均給与（手取り）が最も高かった業種は、タバコ分野で（6,467レイ、約1,437ユーロ）で、反対に最も低かったのは宿泊・飲食業（1,299レイ、約288ユーロ）。（INS）

・20日、国家雇用庁（ANOFM）は、1月末の失業率を、12月末の失業率から0.03%ポイント増加し、また、2016年1月末の失業率から0.1%ポイント低下して、4.8%となったと発表。（ANOFM）

■格付（2017年4月14日付）

Fitch 外貨建長期（国債） BBB-（安定的）
自国通貨建長期 BBB（安定的）

S&P 外貨建長期 BBB-（安定的）
自国通貨建長期 BBB-（安定的）

JCR 外貨建長期 BBB（安定的）
自国通貨建長期 BBB+（安定的）
（内はアウトルック）

我が国との関係

・11日、「D. カンテミール」大学において、第一回日本語プレゼンテーション大会が開催され、約20名のルーマニア人日本語学習者が日本語でプレゼンテーションを行った。成績優秀者には日本人会、日本商工会の他、旅行会社やレストランから賞が贈られた。

・13日、大学中央図書館において、日・ルーマニア防災セミナーが開催された。13日冒頭オープニング・セッションには、ルーマニア側から、ブスヨク首相府長官、アラファト内務省次官兼緊急事態総局長官、フロレスク・ブカレスト副市長等が、日本側からは、佐谷・内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（普及連携・啓発担当）他が出席し、同セミナーの様子は、ルーマニア複数の民放TV局で紹介された。

・16日、日本大使館はJETROブカレスト事務所とともに、ブカレスト郊外のマグレレに所在する「ホリア・フルベイ国立物理学・原子力工学研究所」において、同研究所にて実施されるEUの欧州地域開発基金協調融資の超高強度レーザー・プロジェクト「ELI-NP（Extreme Light Infrastructure-Nuclear Physics：極限光科学研究開発機構 - 核物理）」プロジェクトの日系企業見学会を行った。同視察の様子は、ルーマニア民放TV局で紹介された。

・21日、石井大使は、グリーンデアヌ首相を表敬し、同首相との間で日・ルーマニア二国間関係のさらなる発展の方策等について意見交換した。グリーンデアヌ首相からは、日本との経済関係の一層の強化に対する強い期待が表明された。

・30日、ブカレスト国立劇場大ホールにおいて日本のコンテンポラリーダンス・カンパニー「NOISM」による「ラ・バヤデーラ 幻の国」が上演された。（国際交流基金主催、JTI特別協賛、日本大使館、Art

Product Foundation, シビウ国際演劇祭協力)。4月5, 6日には, シビウの「ラドゥ・スタンカ」劇場において「NO I S M」による「マッチ売りの話+passacaglia」が上演された。